

# 社会福祉法人生活クラブ2009年度事業計画

## 共通の課題

### 1 経営改革の継続、深化

#### 事業所の目標管理力の向上

2008年度に一定の成果をあげた収入目標の管理水準をいっそう高めるとともに、今後はコスト管理の徹底を図ります。

#### 人事諸制度の改革・整備

改善した新「人事制度」を2008年下期から運用を開始しました(下図)。また、「法人理念」を従来の7項目から3項目に簡素化し、新しく作成した職員「行動基準」とともに、12月に全職員対象の人事制度説明会を開催して周知を図りました。

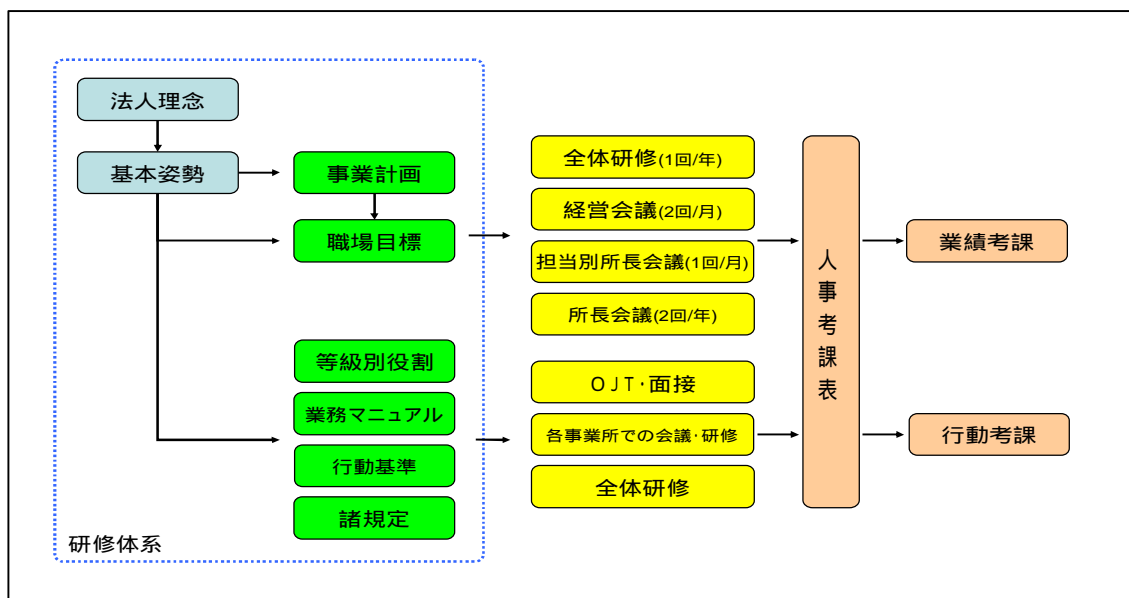
2009年度中に「業務マニュアル」を作成し、分野ごとの業務内容を標準化します。どの事業所のどの職員による業務もこのマニュアルに基づいて行われるようにします。

#### 戦略的な職員採用の推進

2010年度新卒採用者の獲得に重点を置いた採用活動を展開します。

#### 基幹システムの見直し、再構築

より使いやすく、介護保険制度の改定にともなう修正がしやすいシステムを再構築すべく、プロジェクトチームを設置して検討します。




#### リスクマネジメント力の強化

福祉事業を営む社会福祉法人の社会的な使命、倫理感を、全事業所、全職員が共有できるよう、法人運営の体質強化を図ります。

2008年度に実施した、介護の基礎理論、技術の標準化のための連続研修のフォローアップ研修を行います。また、風

の村、さくら風の村の現場職員の介護理論、技術のスキルアップを図る研修を実施します。さらに、研修の企画、実行力を強化するために、体制を強化します。

風の村において外部スーパーバイザーを導入して進めているユニットケア改革を継続します。



特定事業所加算申請に当たり、訪問介護の全事業所で第三者評価を受け、介護の質の向上と評価結果の公表で事業所としての評価を地域に表明します。

マルチステークホルダー型運営を目指し、事業所ごとの運営委員会設置を追求します。運営委員会は法人評議員会に準じた役割を想定し、年2回以上の開催を目指します。

理事会、評議員会、それぞれの役割をこ

れまで以上に発揮できるよう、理事会、評議員会の活性化を図ります。その一貫として、副理事長職(非常勤)を新しく設けます。

諸会議の役割を明確にし、機関会議への職員参加を義務付けます。各事業所とも参加率の目標を決めて管理し、最終的には、全職場で100%の参加を目指します。



## 2 事業計画の充実と地域福祉活動計画の策定

### 事業所ごとの事業計画の充実

それぞれの事業所は、その地域における重要な地域資源です。生活クラブの一事業所として事業を遂行するとともに、地域の諸団体、個人と連携して地域社会になくはならない存在として活動することが求められています。そうした観点を盛り込んだ事業計画を策定し、それぞれに基づく運営を行います。

地域貢献と職員の意識向上の視点から厚生労働省の「認知症を知り地域を作る」キャンペーンの一環の認知症サポーターの養成に法人として取り組み、職員が地域の一員としての役割を果たします。

### 生活クラブ版地域福祉活動計画の策定

**市町村ごとに、市町村地域福祉計画・社協の地域福祉活動計画と連動した、生活クラブ版地域福祉活動計画を策定します**

同一市町村内の事業所が一緒になり、また生活クラブ生協、VAIC・CCIなど生活クラブ千葉グループにも呼びかけて、市町村ごとに策定します。


各市町村では社会福祉法に基づく地域福祉計画が策定されています(未策定の市町村もあります)。また、これと連動して、市町村社会福祉協議会が地域福祉活動計画を策定しています。それらは、市町村段階の地域福祉のあり方を決定付ける重要な計画です。まず、これらの計画の内容を知ることから始めます。



この活動を通して、市町村、市町村社会福祉協議会と協力して、社福生活クラブをはじめ、生活クラブ千葉グループが積極的に地域福祉の発展に貢献していくことが可能になります。

社会福祉協議会は、社会福祉法によって、地域福祉の担い手と規定された団体です。地域福祉の発展のために、市民や福祉事業者などが社会福祉協議会の活動に積極的に参加していくことが求められます。上記の活動を通して社会福祉協議会との連携を図り、事業所ごとに、市町村社会福祉協議会への加入を検討します。





### 3 ユニバーサル就労の促進

社会的に不利な立場の人の就労を進めることを、社会福祉法人の社会的な使命と位置づけ、各事業所でユニバーサル就労を促進します。

障害を持つなど、社会的に不利な立場の人の就労を「ユニバーサル就労」と呼びます。

「ライフ&シニアハウス市川」の事業を始めるに当たり、地元のNPO団体や特別支援学校などの方々の参加を得て、ユニバーサル就労ワークショップを実施し、洗濯と清掃業務の委託に結びつきました。

また、2009年6月にオープン予定の高根

台つどいの家(後述)でも地元の諸団体とともにユニバーサル就労ワークショップを開催し、各団体との話し合いを重ね、就労の可能性が具体的に見えてきています。

さらに、社福生活クラブの全事業所でユニバーサル就労を促進するための仕組みづくりを検討する「ユニバーサル就労システムづくりワークショップ」を設置しました。

### 4 新規事業展開と既存事業所の再編

#### 高根台つどいの家

2009年6月に「高根台つどいの家」をオープンします。高根台つどいの家は、ライフ&シニアハウス市川に続いて㈱生活科学運営と一緒にこなう2件目の事業です。

高根台つどいの家ではさまざまな事業を行ないます。生活クラブは、新規事業として、高根台クラブ(小規模多機能型居宅介護事業)、サポートハウス高根台(介護型高齢者専用賃貸住宅運営事業)を行なうとともに、船橋介護ステーションの居宅介護支援事業、訪問介護事業を移転、統合します。㈱生活科学運営は、認知症高齢者グループホームと自立者向け高齢者専用賃貸住宅事業を行ないます。

小規模多機能型居宅介護事業は、生活クラブが初めてこなう事業になります。

#### 第2サポートハウス光ヶ丘(仮称)

サポートハウス光ヶ丘は、生活クラブグループ企業の㈱生活サポートクラブが設置(地主が建物を建てて生活サポートクラブが一括して借り上げるリースバック方式)し、社福生活クラブが業務委託を受けて運営しています。2007年7月にオ

ープンして以来、早々に定員を満ちし、入居待ちの状態が続いています。

このため、サポートハウス光ヶ丘の隣地に第2サポートハウス光ヶ丘(仮称)が増設され、サポートハウス光ヶ丘と同様、リースバック方式で㈱生活サポートクラブが一括借り上げし、生活クラブが委託を受けて運営します。


増設された高齢者専用賃貸住宅(15居室)には地域活動支援センター(仮称)や喫茶コーナー、コミュニティスペースなどが併設され、地域に根差した拠点となるような計画になっています。早く今年度8月に完成の予定です。

#### 風の村増床

2011年に風の村の特養の増床を行ないます。2008年度に始めたケア改革を軌道に乗せる活動を継続しつつ、2009年度下期から、増床部分の設計の検討に入ります。

#### 市原プロジェクト

プロジェクトチームの報告書をもとに、他の事業の進捗状況等総合的な判断を行い、2009年度上期中に事業展開の可否を判断します。





# 2009年度当初予算

2009年度は、事業活動収入を20億9千4百万円、事業活動支出を19億4千1百万円、経常収支差額1億3千4百万円で編成しました。予算の大きな特徴は、介護保険報酬改定及び障害福祉サービス報酬改定、新たな人事制度のスタート、新規事業では4月より柏市地域包括支援センター受託、6月に小規模多機能型居宅介護及び高齢者専用賃貸住宅のサポートハウス高根台の開設、8月からは光ヶ丘サポートハウスの増設を予定しています。

## 主な経営数値

項目	数 値	08年予測比
訪問介護事業のケア時間	220,336 時間	106.4%
高齢者デイサービス利用回数	24,082 回	105.7%
居宅支援プラン数	15,131 件	110.6%
短期入所事業の受入件数	10,073 件	94.3%

## 事業別収入予算

単位:千円

区分	収入額	区分	収入額
ホームヘルプ事業	703,374	小規模多機能	41,276
特別養護老人ホーム	245,102	医療事業	32,681
デイサービス事業	236,708	相談事業	23,052
保育園	190,467	入居者の生活援助	
		事業	7,712
居宅介護支援事業	179,140	本部	5,084
老人ホーム受託事業	158,791	賃貸事業	2,400
ショートステイ事業	135,859	ヘルパ-研修事業	1,422
あかとんぼ事業	87,575		
地域包括支援	41,549	合 計	2,092,198

## 資金計画

単位:千円

1. 経常活動資金収支差額	181,978
2. 施設整備等支出計	
さくら風の村隣地土地購入・整備等	29,420
風の村特養改装費	15,000
高根台クラブ開設備品等	6,961
ファンレストテーブル等	1,886
その他	4,260
小 計	57,527
3. 財務収入計	
借入金元金償還補助金収入	3,250
4. 財務支出計	
設備資金借入金償還金	
・さくら風の村	20,835
・風の村	12,800
・風の村保育園	4,730
・わらしこ保育園	2,060
小 計	40,425
修繕積立金支出	
・わらしこ保育園	2,500
・風の村	5,000
・風の村保育園	3,000
小 計	10,500
5. 予備費	20,000
6. 当期資金収支差額合計(1 - 2 + 3 - 4 - 5)	56,776

## 当回事業活動収支予算

08 予算比

勘定科目		金額	08 予算比
事業活動収支	収入		
	介護保険収入	1,450,465	114.7
	自立支援費等収入	203,803	121.6
	療養費等収入	16,080	24.6
	運営費収入	130,119	103.1
	私的契約利用料収入	5,337	106.8
	入居者の生活援助受託収入	158,721	137.2
	入居者の生活援助収入	7,712	
	受託事業収入	553	
	ヘルパー講座事業収入	1,422	
	経常経費補助金収入	65,995	103.9
	寄附金収入	3,735	92.5
	雑収入	5,225	35.3
	職員等給食費収入	6,587	
	借入金元金償還補助金収入	3,250	100.0
	国庫補助金等特別積立金取崩額	32,498	105.5
	就労支援事業収入	691	177.2
	事業活動収入計 (1)	2,092,198	112.4
	支出		
	人件費支出	1,479,216	107.5
	事務費支出	222,790	100.4
事業費支出	156,646	111.5	
減価償却費	78,781	96.8	
徴収不能額			
引当金繰入	4,037	82.1	
事業活動支出計 (2)	1,941,472	106.4	
事業活動収支差額 (3) = (1) - (2)	150,726	408.0	
事業活動外収支	収入		
	事業活動外収入計 (6)	1,084	100.0
	支出		
事業活動外支出計 (7)	16,902	96.4	
事業活動外収支差額 (8) = (6) - (7)	15,818	96.2	
経常収支差額 (9) = (5) + (8)	134,907	657.9	
特別収支	収入		
	特別収入計 (10)		
支出			
特別支出計 (11)	3,250	100.0	
特別収支差額 (12) = (10) - (11)	3,250	100.0	
繰越活動収支差額の部	当期活動収支差額 (13) = (9) + (12)	131,657	763.0
	前期繰越活動収支差額 (14)		
	当期末繰越活動収支差額 (15) = (13) + (14)	131,657	763.0
	基本金取崩額 (16)		
	基本金繰入額 (17)		
	その他の積立金取崩額 (18)		
その他の積立金積立額 (19)			
次期繰越活動収支差額 (20) = (15) + (16) - (17) + (18) - (19)	131,657	763.0	